

high end design and lifestyle

隔月刊 アイムホーム 1・3・5・7・9・11月の各16日発売

I'm home.

Everyday Funday Kids Room

個性を磨く子ども部屋

2019
MAY

99

www.ihome-style.com

Superior
Bathroom
Products

OUTDOOR PRODUCTS

WONDERFUL HOME & GARDEN

贅沢な庭、豊かな暮らし



7

GARDEN

森の中のおおらかな整形式ガーデン

Ogata Residence (no.96に掲載) Chigasaki-shi, Kanagawa

Architecture + Garden Design : KONARA HOUSE
Photographs : Nacasa & Partners Text : Asuka Kobata



丁度、神奈川・茅ヶ崎の郊外に立つ建築家の小形。児さんと妻の美栄子さん
の自邸です。南側の仕事を成しと北側のはまいで高い約4mのレイニアンドビキの壁を
設け、ゲートのように緑質をくわえていた。写真は庭からゲートを見渡す
シーンで、奥に見える切妻屋根の建物が仕事を。
左写真：東西方向に設けた小窓の西側には、児さんがつくる小さな窓を設置。
クマモやヤマモモ、ケヤキなどの既存の雰囲気を圍まれたスペースで、隠れ
家のような雰囲気を醸している



下：どちらも夏にかけて、東側の花壇では数種のバラを楽しむ。左：カーフラグジイ、アカルム、ジギタリス、モルダナなど花壇の奥面を見渡すと上り坂。上段・左：東側の花壇(H約90cm)で囲った花壇の南側に配した草花のスペース。バーブルの花を咲かせるラーカスバーバラフロクス、赤いバラ(写真右)などさざざかな色を織り交ぜるほか、レスベラワー(写真左)のような個性的なシルエットのものも合わせた。



庭の中心から西側を見る。再生敷きの庭にはゲートから住まいへと続く南北の小道と交差して東西にも小道を設け、フォーマルな印象に。小屋の裏に見える丘の緑木が生い茂る場所と、手を加えた手前の整形式ガーデンのコントラストがユニーク。

神奈川・茅ヶ崎の郊外、豊かな緑に囲まれてひっそりと立つのが建築家の「家」。奥さんと夫でマイソーラーでデザイナーの実安子さんの自邸だ。住まいと事業用の事務室を同じ敷地内に建てることを望んで、見つけたのは、樹木が生まれた約400年の古木。ガーティニサイヘン(手掛けた実安子さんは、「古木を決める時、常に整形式のベンチマーキング(標準式ガーデン)を置いて描いていた」。左のベンチマーキングの配置式ガーデンは、その配置を参考せるために十分な面積が必要。この敷地ではそれがかなしく、樹木が生れるので、それをアーチドア(アーチの門)の間に通す。ある意味アーチドアの進行阻害となる。南側からはほど住まいが見えない。そこで配置して、その生き残りを保つ。ネルのやうな木べりを設けて、木べりと接して壁づくりを始めた。アーチドアの壁と接して壁づくりを始めた。

特にこだわったのは、南から住まいに向かうゲート付近のロード。仕事場と庭空間に高さのあるレントランド(ドアキ)の付け根を高く、南側からはほど住まいが見ない。そこで配置して、その生き残りを保つ。ネルのやうな木べりを設けて、木べりと接して壁づくりを始めた。アーチドアの壁と接して壁づくりを始めた。

特にこだわったのは、南から住まいに向かうゲート付近のロード。仕事場と庭空間に高さのあるレントランド(ドアキ)の付け根を高く、南側からはほど住まいが見ない。そこで配置して、その生き残りを保つ。ネルのやうな木べりを設けて、木べりと接して壁づくりを始めた。アーチドアの壁と接して壁づくりを始めた。

木べりに沿うて仕切だ。ゲートの先住まいに面する壁に、貼りの塗装が施してある。さらにそれを支えて、更方に木べりを設けることで、整形式庭を活用。下に木べりを設けた生垣を造り、ツブを用いて、二つ折した花壇をシムズドア(ドアキ)に仕立てた。アーチドアの壁と接して壁づくりを始めた。

一方、木べりの森はまじめに事務室の裏庭として造形を楽しんだ。以前は、以前はあつた樹木を伐して、さくらひの木、庭の側のクスギや往々通り前日アラモ伐して、それらを残すの森と新たにデモンストレーションの合宿を開いたとしている。また、ボリュームのあるクヌギが目を引く。西側と対照的で、東側花壇に多様なバラを中心とした草花やか翠花(草花)、家庭園芸をはじめスリース系花材。それによう、迷くらぬくために育てる美しさによくランズを取っている。

整形式ツォールな庭だ。既存の森を感じさせる樹木や草花がほと與えられた小さな形態。さまざまな表情を掲げ、家族の暮らしに似合っている。



東側の花壇から住まいを見る。三角屋根の趣ある外観の建物と均整の取れた雙形式ガーデンが森に包まれるように存在。住まいの前にベンチやテーブルを置き、家族の憩いの場にしている



約8.2m²とコンパクトな子ども部屋(CH2450mm)。南側に2段ベッド(W2150mm×D1095mm×H2450mm)を製作することできりとした印象に、ライムグリーンの開け切り壁に負けた。デザインの異なる大きささまざまな開口が楽しい。上段は鏡付きの椅子室(W750mm×H680mm)とし、椅子ではなく階段(W630mm、踏み面210mm、段上H211mm)を設置するなど安全性にも配慮した



01 遊び心を散りばめた造作2段ベッド

K Residence Koto-ku, Tokyo

Architecture : KONARA HOUSE

Everyday Funday Kids Room

個性を磨く子ども部屋

Contents

Case Study

- 01. K Residence / KONARA HOUSE126
- 02. M Residence / Marius Quaschinski130
- 03. S Residence / 梅根建築設計事務所 梅根アンドレア132
- 04. N Residence / CO2WORKS—級建築士事務所134

Creative Planning136

Makers148

Case Study

子どもにとって好きな物に囲まれ、安心して過ごせる自分だけの空間が特別なもの。子ども部屋を計画する際は、ほかの部室との関係性を含めたプランニングやインテリアの両面からアプローチすることが重要だ。ここではオリジナリティーあふれる国内外の4軒の子ども部屋を紹介。さまざまなアイデアをヒントに、家族のかたちに合った豊かな空間を実現したい。

Photographs : Nacasa & Partners

Text : Kiyo Sato (126~129頁) I'm home. (130~135頁)

DATA

構造・規模：地上20階建てのマンションの一室
床面積：約83m² 子ども部屋：長女+長男約8.2m²
家族構成：夫(46歳) 女(38歳) 長女(8歳) 長男(4歳)

◆子ども部屋の主な仕上げ材料

床：ナラ材フローリング(18mmヒンボン貼り)(ニッシンイクス) 砂：AEP塗装(Blue Surf)
天井：AEP塗装(White On White/ル・ピットsburgh Paints)

◆子ども部屋の家具・備品(仕様リスト)

造り付けベッド(ヒノキ材+メモリーハム材の上AEP塗装) 造作収納(面材・ヘム村) 造作
デスク(木+脚・ヘム村) イス(CRISIS CHAIR LAQUERED/PIET HEDN EK)

※設計者の連絡先は198頁に掲載



部内に立つマンションの一室をリノベーションしたK邸。建築家の小形 究さんとインテリアデザイナーの小形美栄子さんが手掛けたこの住まいには、夫婦と8歳の長女、4歳の長男が暮らしている。既存のプランをベースにしながら、眺望が開ける南側にワールームのリビング＆ダイニングルーム、北側のエントランス付近に主寝室と子ども部屋を配置。住まい全体に造作家具を取り入れてクラシカルモダンにまとめる一方、二人の子どもが一緒に過ごす部屋は、ライムグリーンと淡いパープルのペイントとファブリックによって、個性とふるまれる空間をつくり出している。

子ども部屋で特に印象的なのが造作した2段ベッドだ。約8.2m²の限られたスペースを有効活用するために設けたものの、ライムグリーンの間仕切り壁に備えた格子や窓枠、アールなどの大小5つの異なる間口が楽しくない雰囲気を演出。おもちゃで遊びたり、腰掛け本を読んだり自由に過ごせる。まさに秘密基地のような空間となっている。

さらに、窓際には二人が並んで勉強できるデスクを造作。収納はラック風のクローゼットのほか、ベッドや階段下部のデッドスペースを生かし、引き出し内部は収納する物に合わせて段落や棚板で仕切った。細部まで丁寧につくり込むことで、おもちゃや学習用品などが定位置に収まり、すっきりとした状態をキープしている。

こうした造作家具はリビング＆ダイニングキッチンと同じく、靴庫やモールディングでクラシカルモダンなデザインに。ヘリンボーン貼りの床やアントイークの明暗と調和する美しいインテリアをかなえている。

今後、子どもたちが思春期になったら、隣接するランドリーや書斎の壁を取り払い、もう一つ子ども部屋をつくる予定。インテリアにこだわると同時に、将来を見越えた子ども部屋を実現した。



上／階段下には引き出し式の収納を利用。内部は段差や間切り、フックを取り入れて収納力をアップさせた。収納する物を把握しうるで面倒に計画することで、誰もが自分でわざわざ子ども部屋もインテリア性のある空間になる。階段の踏み板は丸い形状で安全性を確保した。また、階段手すりは、壁から外れるよう白をベージュにしながら、底面やモールディングを施したデザインに。ヘリンボーン貼りの床や天井のモールディング、アンティークの照明と相まって、クラシカルで温かな雰囲気を演出している



上／ベッド横の自分で統一した間に一つひとつ異なるデザイン。壁に囲まれていたため、こちらうるさきを遮るために、下部は靴道レールやモールディングなど、なるべくものも少しきれいな壁紙をベースとして利用。用意したドスシーを有効活用した。左／北側の部屋には有効活用のデスク(W1340mm×D505mm×H700mm)を作成。イスを始め、壁のロマンシードは間仕切り壁のライムグリーンに合わせ、ピンクのボンボンフリングをプラスした。上から垂れ下がるよろうインテンドで仕上げた壁は、淡いパープルに。引っ越し後、夫婦が自分で貼った種類のウォールスチッカーデザインになっている



AFTER PLAN 1:100